

和白干潟を守る会

2020年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2020年度のまとめ

和白干潟を守る会の環境保全活動は、33年目を迎えます。会員の皆さまのおかげで長く続けていくことができました。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。昨年は世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し、多くの人々が感染症にかかったり亡くなったりしました。日本でも緊急事態宣言が出されました。和白干潟を守る会では多くの活動が制限され、和白干潟まつりも中止いたしました。3月～5月までは、クリーン作戦も呼びかけを行わず守る会のできる人で清掃しました。定例会議も定例会議資料を和白メールで会員に配信しました。緊急事態宣言が解除された6月からは、感染防止対策をとりながら定例会議やクリーン作戦を実施してきました。コロナウイルスのワクチンも開発されつつあり、明るい兆しを感じられます。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催したいですね。

2018年10月の第13回ラムサール条約締約国会議で国内では2か所の湿地が登録されましたが、残念ながら和白干潟は登録されませんでした。今後もラムサール条約に登録されるように活動を続けていきたいと思います。ラムサール条約に登録されるためには、和白干潟が国指定鳥獣保護区の「特別保護地区」に指定されなければなりません。また国指定鳥獣保護区の普通地区のままです。

「山・川・海の流域会議」の活動では、立花山・唐原川・和白干潟の保全グループが連携して保全活動を続けています。2020年1月に新春座談会「唐原川を語ろう」(唐原川の自然の復活を目指して！)を行いました。その後は新型コロナウイルス感染防止のために総会は中止となり書面配布となりました。11月には「唐原川お掃除し隊」を実施しました。

活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加者が増加傾向です。九州産業大学は特別講義を企画され、多彩に協力いただきました。2020年度は新型コロナ感染症の流行で活動が制限された中で、よく活動を続けることができました。ミヤコドリは今冬は19羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも17羽を確認しています。ツクシガモは190羽を確認しました。今冬は久しぶりにハマシギやシロチドリなどの小型シギ・チドリ類の群れが見られます。和白干潟がもっともっと回復してほしいと願っています。

今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針に基づく報告とまとめ

1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」、「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」、「学習会などの企画」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに和白干潟の自然の大切さを認識してもらい、自然保護の気運を高める。

1. 和白干潟観察会

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観察会は大きく減った。1月に観察会案内状の送付を行い、観察会グループミーティングは、11月に行った。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2020年度中(1月～12月)の和白干潟自然観察会は、年間6回で、延べ384名の参加があった。学校関係からの依頼では、小学校2回(和白小学校)240名、中学校1回(筑陽学園中学)73名、高校1回(柏陵高校)44名、合計4回、357名あった。和白小学校では、2月末に毎年まとめの発表会があり、守る会のガイドなどが参加している。その他に、センスオブネイチャー、早稲田大学生物同好会など2回、延べ27名であった。毎年7月に開催している「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」は、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。ガイドの固定化と高齢化の課題に対しては、10月の筑陽学園中学校郊外理科学習時に1名がガイド見習いをした。ガイド見習い研修については、今後も継続して行く。

年度	団体区分	実施回数	延べ人員
2020	保育園	0	0
	小学校	2	240
	中学校	1	73
	高校	1	44
	大学	0	0
	一般	2	27
	合計	6	384

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、5月24日に第23期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響により2021年5月に延期となった。

3. 和白干潟のクリーン作戦と自然観察(毎月第4土曜日)

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査を実施した。

定例のクリーン作戦は、年間12回、延べ402名が参加し、1,145袋のゴミを回収した。新型コロナウイルス感染防止のために3月～5月までは一般のよびかけを行わずに

年度	活動項目	回数	延べ人数(人)	ゴミの量(袋)
2019	クリーン作戦	11	937	1,547
	その他	6	510	166
	合計	17	1,447	1,713
2020	クリーン作戦	12	402	1,145
	その他	3	198	5
	合計	15	600	1,150
増加割合(%)		88.2%	41.5%	67.1%

守る会のできる人で行った。定例のクリーン作戦の他に、自然観察会で5袋を回収した。今年は新型コロナウイルスの発生に寄り、観察会などの中止や変更でゴミの回収も少なかったが、11月より会員になられた木下さんが朝に集めたごみも、定例のクリーン作戦として追加した。この内、守る会人数は、延べ134名だった。ゴミについては、人工ゴミを分けて数えるようにした。その内訳は、人工ゴミ:244袋、アオサ:748袋、草木:128袋、不燃ごみ:30袋で、合計で1150袋だった。粗大ゴミでは、今年もタイヤ、浮き、寝具、電化製品、流木など、様々な物があった。定例のクリーン作戦では、企業や城東高校、九州産業大学生などの参加があった。アオサは少ない時期と多い時期があった。(上表参照)

- ・4月25日(土)のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」新型コロナウイルスの為に中止
- ・6月ラブアースクリーンアップ中止
- ・9月26日(土)のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。ゴミ調査には今年は九州産業大学宗像ゼミの学生や、企業からの協力があり、分別が出来ている。ゴミでは依然プラスチック類のゴミが多い。

4. 第32回和白干潟まつり

6月末、今年度の和白干潟まつりは新型コロナ感染防止のために中止する旨をグリーンコープ生協福岡東支部に伝え、7月、和白干潟通信 135号発行延期のお知らせの手紙を発送して干潟まつり中止を掲載した。ホームページのトップページにも中止のお知らせを掲載した。10月に発行した和白干潟通信 135号で「和白干潟まつりの歩み」について振り返りを取り上げた。

5. 和白干潟に関する学びの機会をつくる

新型コロナ感染防止のために十分な活動ができなかったが、出来る範囲での情報発信に努めた。10月発行の和白干潟通信 135号で和白干潟の絶滅危惧種について詳しく取りあげた。昨年に引き続き、観察会でプラスチックごみについての冊子を配布し、プラスチックごみについての紙芝居を見せて啓発に努めている。山本代表の九州産業大学経済学部特別講義（宗像ゼミ主催）「若い皆さんに託したい、和白干潟の自然と地球の未来！」は原稿とパワーポイント資料を学生に送信し、学生がレポートを提出する形で実施した。寄贈された「和白ひがた文庫」の活用を図る取り組みの一環として、和白干潟通信 136号で「和白干潟文庫」の本の紹介に記事を掲載した。

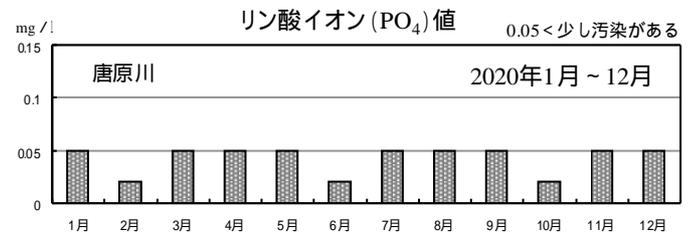
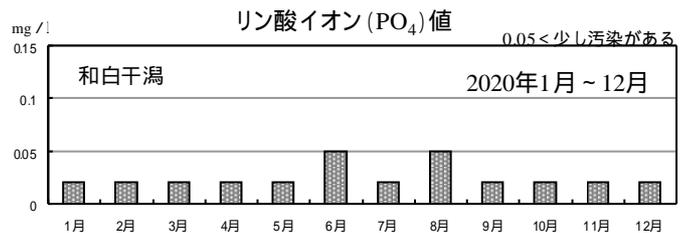
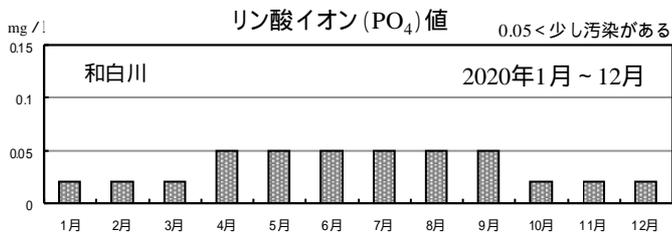
2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

6. 調査

調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。水質に関しては唐原川と和白川を調査地点に加えて観測を行っている。

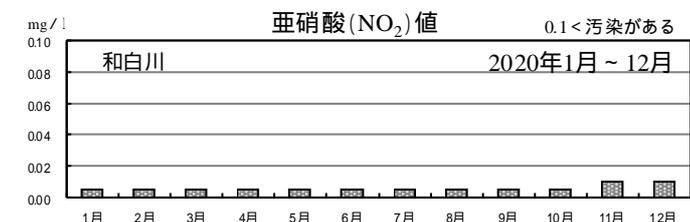
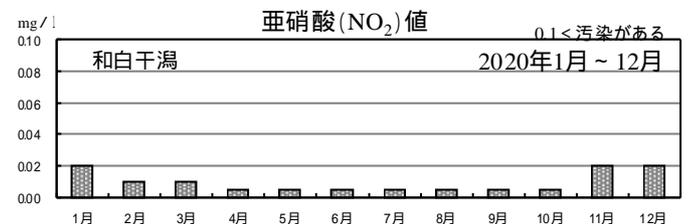
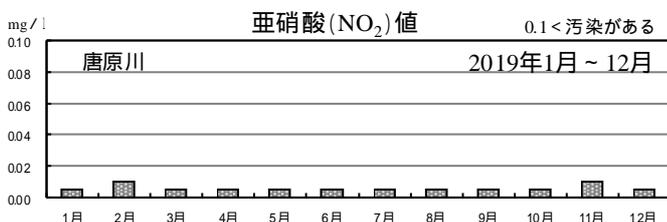
(1) 水質調査（毎月1回実施）

リン酸イオン値(PO_4)は海水中のリンの状態を示すもので0.05以下は「きれいな水」であること、0.05~0.2は「少し汚染がある」状態であることを示す。



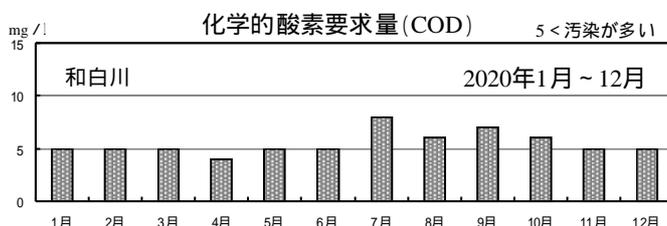
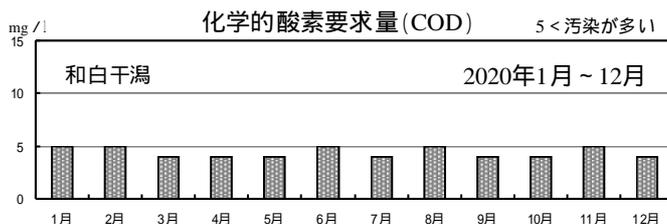
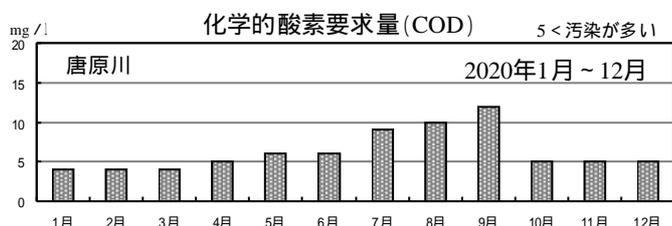
- ・和白干潟では、年間を通して0.05以下であり、「きれいな水」の状態であった。
- ・唐原川、和白川とも年間を通して0.05以下であったが、0.05の時も多くあり、和白干潟よりは少し汚染がある状態である。

亜硝酸値(NO_2)は海水の窒素の状態を示すもので、0.005以下は「きれいな水」、0.005~0.02は「少し汚染がある」、0.02~0.05は「汚染がある」状態を示す。



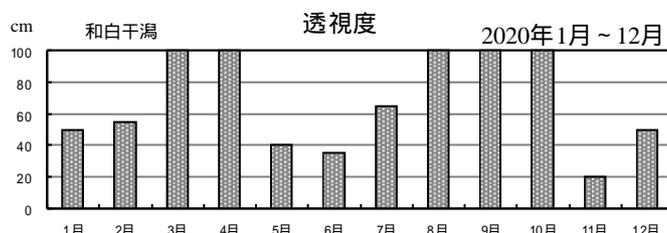
- ・和白山干潟では年間を通して0.02以下であり水質は「少し汚染がある」状態であった。
- ・唐原川、和白山川は、年間を通して0.01以下であり、「きれいな水」の状態であった。

化学的酸素要求量(COD)は水の汚れ具合を示すもので、2以下は「きれいな水」、2~5は「汚染がある」状態、5~10を「汚染が多い」としている。



- ・和白山干潟では年間を通して5以下であり、5を下回る月が7回あり、「汚染がある」状態であるが、水質は改善傾向にある。
- ・唐原川や和白山川では年に何度か5を越えることがあり、和白山干潟に比べると汚れが多い。和白山川と唐原川を比べると唐原川の方が汚れが多い。

透視度については、以前は通常30cm位であったが2015年度からは透視度計の100cmまで見ることがあり、透視度は改善傾向にある。2020年度は平均で68cmであり、前年よりは悪化した。



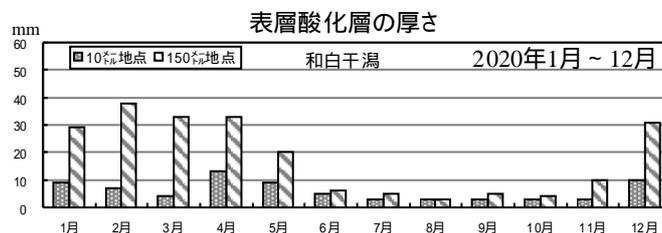
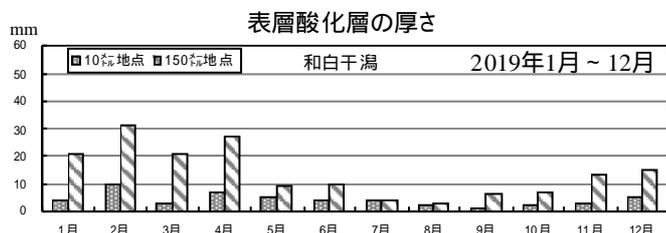
(2) ゴミ内容調査

9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、25種類のゴミが回収された。収集したゴミの中で、特に多かったのは、今、社会で問題となっているプラスチックゴミの「ペットボトル」で、その次に多かったのは「飲料缶」でした。調査には九産

大宗像ゼミや澤田ゼミの方々の協力がありました。調査データは干潟通信やホームページで公表していく。

(3) 砂質調査

和白山干潟・海の広場前10m地点と150m沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。



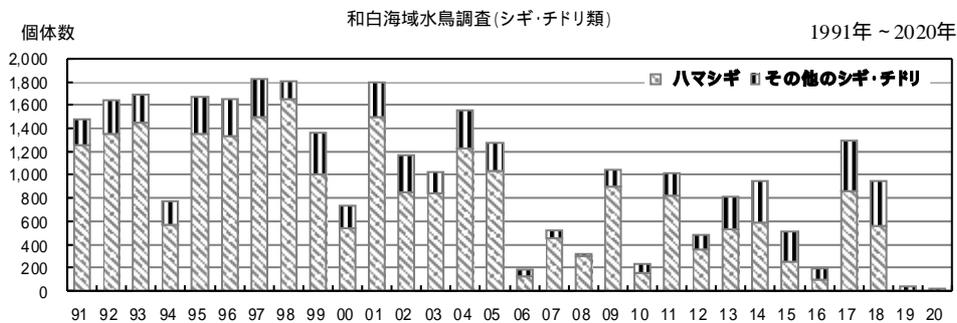
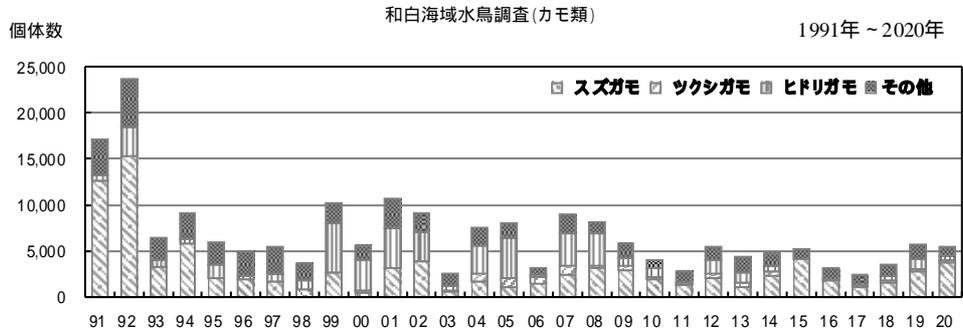
上のグラフは、2019年度と2020年度の表層酸化層測定結果である。沖合いの方が厚い傾向にあるが両年度とも浜辺側の表層酸化層の厚さが薄く、2020年度は、2019年度に比べて改善している。

(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

1月 和白海域水鳥調査(日本野鳥の会福岡支部) 2020年1月12日に実施。

和白海域の水鳥の越冬数(和白海域水鳥調査)の内、カモ類は前年の5,653羽より少し減少し**5,458羽**、最多の1992年の23,719羽と比べて約4分の1だった。シギ・チドリ類は大幅に減少した前年の37羽よりさらに減少し**23羽**。90年代の約1,600羽と比べて約70分の1だった。冬期に越冬するハマシギなどの小型シギ・チドリ類が大幅に減少している。調査参加者は5名だった。



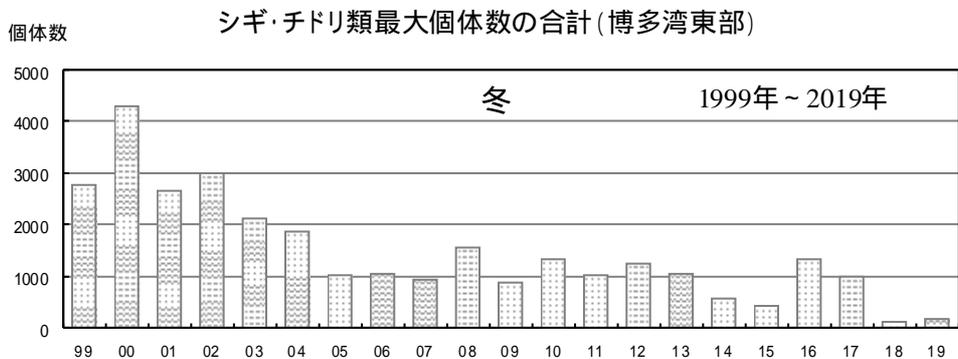
環境省モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ調査(環境省・NPO 法人バードリサーチ)

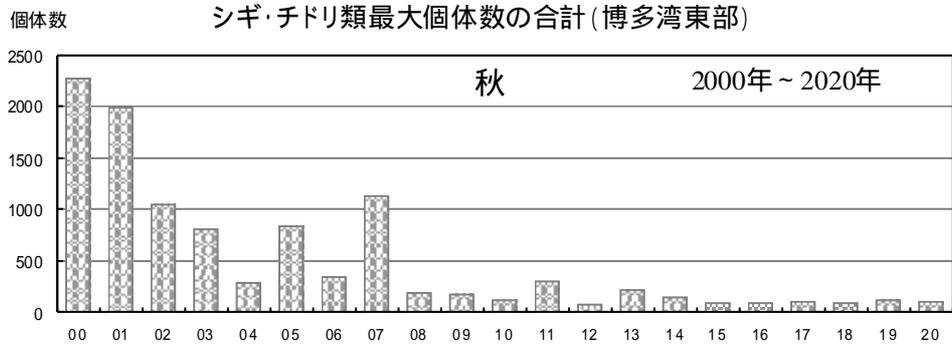
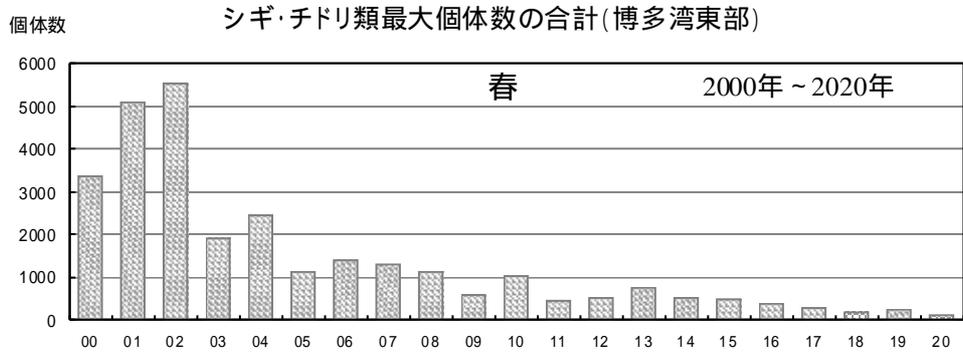
冬期：2019年12月、2020年1～2月 今津と博多湾東部で各3回実施

春期：2020年4月～5月 今津と博多湾東部で各3回実施

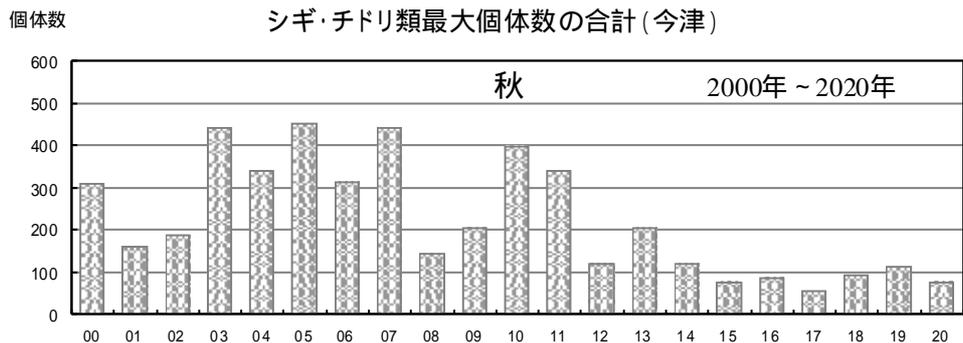
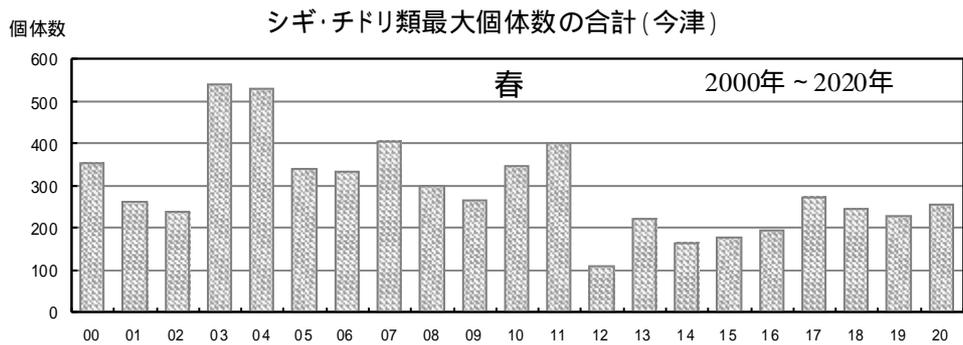
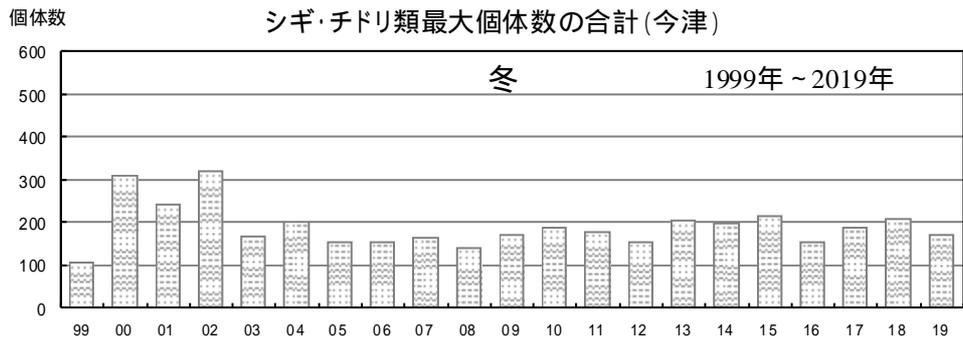
秋期：2020年8月～9月 今津と博多湾東部で各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2019年度冬期は2000年の4,300羽から**181羽**に減少し(昨年500羽より減少)、2020年春期は2002年の5,509羽から**87羽**に減少(昨年226羽)。2020年秋期は2000年の2,271羽から**95羽**に減少した(昨年114羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**35羽**(昨年27羽)、ヘラサギは最大**1羽**(昨年4羽)、ツクシガモ**254羽**(昨年247羽)、ズグロカモメ0羽(昨年0羽)を確認した。





今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2019年度冬期は2002年の319羽から**171羽**に減少し(昨年208羽)、2020年春期は2003年の538羽から**255羽**に減少(昨年226羽)2020年秋期は2005年の450羽から**76羽**へ減少(昨年113羽)。希少種では、冬期と春期にクロツラヘラサギは最大**21羽**(昨年22羽)、ヘラサギは最大**7羽**(昨年9羽)、ツクシガモ**30羽**(昨年20羽)、ズグロカモメ**16羽**(昨年11羽)を確認した。



(博多湾東部と今津のグラフの個体数については単位が違うことに注意！)

この 20 年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。2019 年冬期は、和白海域では 12 月にはアオサがたくさん堆積していたが、1 月にはほとんど無くなっていた。2017 年冬期のシギ・チドリの個体数が少し増加したが、2018 年春期以降はまた減少し、2020 年度も減少したままだった。今津のシギ・チドリは減少状態である。博多湾東部に比べて今津は開発の影響が少ないと思われる。

2020 年の鳥類調査参加者は、毎回 6 名から 8 名、延べ 66 名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。鳥類調査担当者が高齢化し、調査員が足りない。今も調査協力者を求めている。

ミヤコドリは 2020 年 9/15 に 2 羽初認、9/30 に 6 羽、10/14 に 12 羽、11/24 に 19 羽を観察し、越冬している。(昨年度 20 羽最大数記録) クロツラヘラサギは 2020 年 10/3 に 1 羽初認、10/11 に 7 羽観察、10/18 に 12 羽観察、11/10 に 17 羽観察。その後も 1~6 羽が越冬している。ツクシガモは 11/17 に 4 羽(初認)、11/28 (28 羽)、12/13 (190 羽) 観察。以降も越冬している。

3 貴重な鳥類をはじめとする生物多様性に富む和白干潟を「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。博多湾の自然を壊す人工島などの公共事業には厳しい監視と関心を持って対処する。今ある自然を壊さないこと、壊れた自然は元の自然に戻すことを目指す。

和白干潟の生態系を守るために、山・川・海の流域連携に取り組み、地域の自然再生への取り組みを進める。和白干潟を守る会の活動をより広く知ってもらい、活動への参加者、賛同者を増やすために広報活動を強化する。

7 . ラムサール条約登録をめざし、行政、議会、市民に向け活動に取り組む (目標年度を削除)

10 月に発行した和白干潟通信 135 号で和白干潟の絶滅危惧種について詳しく取りあげた。第 32 回和白干潟まつりは新型コロナ感染防止のために中止したため、ラムサール宣言を出すことができなかった。和白干潟通信 135 号の「和白干潟まつりのあゆみ」の記事の中で、第 16 回 (2004 年) から干潟まつりの中で「ラムサール宣言」を採択していることをアピールした。

8 . 福岡市の環境政策、公共事業に対し、情報収集、学習、意見交換、提言に努める

(1) 福岡市の政策についての取り組み 該当する活動なし

(2) 福岡市との連携

「和白干潟保全のつどい」の定期開催 福岡市港湾空港局環境対策課、自然保護団体などと連携し、「和白干潟保全のつどい」を毎月 1 回定期的に開催しているが、3 月から 5 月までは新型コロナ感染防止のために中止し、6 月からは再開した。11 月と 12 月は休止した。7 月に予定していた「和白干潟の生きものとハマボウを見る会」、秋に 3 回予定していた「アオサのお掃除大作戦」も新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

「エコパークゾーン水域利用連絡会議」

3 月に予定していたエコパークゾーン水域利用連絡会議 は新型コロナウイルス対応のために中止となった。

「ラブアースクリーンアップ」

6 月のラブアースクリーンアップ 2020 は新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。7 月に福岡市道路下水道局東部下水道課から唐原川の中で下水道 (雨水) の工事を 1 か月間行う件で説明を受けた。12 月に工事開始の前に当たり、担当者と業者から工事に伴う道路の通行止めなど具体的な内容の説明を受けた。

9. 「山・川・海の流域会議」の他団体との流域連携について

1月の新春座談会は「唐原川を語ろう」のテーマで、コーディネーターの藤井彰彦氏の概要説明後、参加者の意見交換を行い、活発な意見が出た。3月の総会は新型コロナ感染防止のために延期となり、結局4月に中止が決定したので、総会議案書を和自メールで送った。5月の会議も中止となった。6月に予定していた「唐の原川を歩こう」の企画は雨天中止となった。7月からの会議は通常通りの開催となった。11月の「唐原川お掃除し隊」はコロナ禍の中で九州産業大学の学生が参加でなかったため、集合場所を1か所に絞り実施した。参加人数も例年に比べ半数程度に減少したが、参加者の活躍により、ゴミの回収量は去年とあまり変わらなかった。2か月に1回の定例会は他団体でも高齢化し、出席者が減少している。

10. スタッフの確保、活動への参加の強化について

ボランティアの募集に力を入れ、気軽にボランティアに参加できるようにHP、通信などで情報提供している。実際、クリーン作戦の参加者は増えている。会社単位でのボランティア参加もあった。6月にライオン(株)福岡オフィスから連絡があり、会社の社会貢献の一環として会の活動内容に賛同して、団体会員になられた。年の後半、定例会議に新規会員の参加が増えた。

11. 広報の強化について

(1) 和自干潟通信・ホームページ・リーフレット類

干潟通信

和自干潟通信は1月に133号、4月に134号を5,200部ずつ発行した。7月発行予定だった135号は新型コロナ感染防止のため10月に延期して5,000部発行した。発行延期にあたっては、7月に和自干潟通信135号発行延期のお知らせ手紙の発送を500部発送し、ホームページのトップページにも発行延期について掲載した。干潟通信は(公財)イオン環境財団の助成金を受けて、ロータリー印刷(株)で作成した。135号は紙色をビワ色に変える工夫をした。通常、10月に発行した干潟通信の「干潟まつり」についての記事にかえて、「干潟まつりの歩み」、「和自干潟の絶滅危惧種」の記事を掲載した。1月発行の136号の記事は「干潟まつりの報告」の代わりに、筑陽学園中学校の校外理科学習の感想文、干潟文庫の本の紹介を掲載した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和自干潟付近の家庭、クリーン作戦、自然観察会参加者、ホテル、郵便局など。4月の和自干潟通信134号発送会は新型コロナ感染防止のため通信を持ち帰って折って来てもらい、手配り分を取りに来てもらう形で行った。10月からは通常通りの形に戻った

ホームページは、5名が分担し編集している。

「クリーン作戦と自然観察のお知らせポスター」は、東区役所、公民館、郵便局、周辺大学(福工大、九産大、福岡女子大)、銀行、駅、老人福祉センター(東香園)などにも掲示依頼している。リーフレット類は今年度は在庫があったので印刷はしなかった。

(2) その他

イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」への参加

イオン香椎浜店で、毎月11日にボランティア団体支援のイエローレシート投函を呼びかけるキャンペーンに参加し、13年目となった。レシートの買い上げ金額の1%相当額が団体に寄付され、4月には1年間のギフトカードを寄贈され、常に上位をキープしている。守る会の通信やイベントのチラシを手渡しして守る会の活動への賛同を呼びかけ、多くのレシートを取得し、活動資金獲得とともに活動のアピールにつながっている。今年は1月に3名、2月に4名が参加したが、3月から新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。4月に行われるイオン黄色いレシートキャンペーンの贈呈式も中止となり、2019年度のギフトカードは後で受け取りに行った。6月からはイオンイエローレシートキャンペーンは実施するが店頭活動は中止になり、活動のアピールはできなかった。

動画制作は、中心的担当者が多忙のため、制作は中断している。

1 2 . 講演活動

- (1) 2 月 山本代表が蒲生干潟を守る会活動 50 周年記念シンポジウム参加と発表
- (2) 11 月 山本代表の九州産業大学経済学部特別講義(宗像ゼミ主催)「若い皆さんに託したい、和白干潟の自然と地球の未来!」は原稿とパワーポイント資料を学生に送信し、学生がレポートを提出する形で実施

1 3 . 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・守る会で写真を提供した「福岡のトリセツ」誌が送ってきた
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の風」(西日本シティ銀行和白支店にて(2/3~2/28)開催
- ・日本自然保護協会に年間スケジュール表を送付、クリーン作戦のお知らせ掲載依頼。
- ・「うみひろも」に蒲生干潟と防潮堤を見て感じたことの寄稿依頼があり原稿を送る
- ・第 23 期和白干潟の自然観察ガイド講習会のお知らせを全国の自然保護 4 誌に送付して掲載をお願いする。野鳥誌・バーダー・自然保護誌は 5 月号に掲載予定
- ・日本フィランソロピー協会の「ボランティアウエブ」にてクリーン作戦募集をお願いする手続き資料に書き込み送付
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の自然」(レストラン「花もも」にて 5/1~5/31)を開催し、パンフレットや通信を配布。
- ・辺野古土砂北九州」の八記さんからの依頼で「和白干潟は生きものの宝庫」の原稿を書き写真とともに送付
- ・ボランティアウエブのボランティア受け入れについてのご案内に対して、7 月からお願いの返信を出した
- ・WWN(世界湿地ネットワーク)の湿地の状態評価調査へ和白干潟の情報を書き込み送信した
- ・辺野古埋め立て変更許可への意見書を書き送付
- ・ラムサール条約国別報告書作成に向けたアンケートに書き込み日本国際湿地保全連合に送付
- ・国立研究開発法人国立環境研究所からの環境 NPO/NGO の活動実態に係るアンケート調査に回答し送付
- ・溝俣洋一さんが海外の野鳥関係者に向けて書いた和白干潟の環境問題レポートの点検

1 4 . 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・TNCTV. 記者の取材を受ける
- ・RKB ラジオで団体会員のアトリエカノンの安藤さんのインタビューがあり和白干潟の焼き菓子を通して和白干潟やくすだひろこのきりえの話しが放送された
- ・ミヤコドリ、クロツラヘラサギ、ツクシガモの飛来について新聞各社に情報提供し、掲載された
- ・あしたの日本を創る協会のインタビューを受け、12 月発行の機関紙「まちむら」152 号に掲載

1 5 . 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 日本野鳥の会福岡支部
 - ・和白海岸定例探鳥会 毎月 1 回「和白海岸探鳥会」で協力している。
- (2) JAWAN、JEAN
 - JAWAN 総会は今年開催されなかった。
 - JEAN「国際ビーチクリーンアップ」
 - 4 月は新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。9 月はクリーン作戦と併せ、漂着ゴミ調査を九産大宗像ゼミとともにいった。

(3) 日本自然保護協会

日本自然保護協会に和白干潟クリーン作戦の年間スケジュールを送りナビに掲載をお願いした。

(4) グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部

第32回和白干潟まつりの共催を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となった。

(5) 福岡市ボランティア交流センター「あすみん」

HPなどへの情報提供を継続し、ボランティア登録した学生などがクリーン作戦に参加している。

(6) 蒲生を守る会とは 機関紙交流を続けている。今年は2月の蒲生生干潟を守る会活動50周年記念シンポジウムに山本代表が参加して発表し、蒲生干潟の見学も行った。

16. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

(1) 定例会議・総会

原則毎月第4土曜日に守る会の事務所で「定例会議」を開催。2月は「総会」を開催し、同日に臨時定例会議を開催した。総会で1年間の活動のまとめ、会計報告、新年度活動方針、予算等を決めた。2019年の総会で定めた内規「会の独立性・中立性について」、「資金の調達について」の確認を行った。

定例会議では会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は全員で意見交換して決定した。また、必要に応じて、役員会を開催した。

定例会議の時間については、2019年度の総会で12時30分から14時30分までに変更した。しかし、新規会員の参加はなく、それまで参加できていた人が参加できなくなった、時間に追われ、議題が十分検討できない、15時からのクリーン作戦の準備も遅れがち等の問題が生じたため、2020年度の総会で12時から14時まで再度変更し、4月の干潟通信に時間の変更を掲載後、5月から変更することにした。

3月から5月は新型コロナウイルス感染防止のため、定例会議は事務所に集まることをせずに、メールで資料を配布し、6月の定例会議で印刷したものを配布し討議した。6月からは、マスクの着用、入り口での手指の消毒、間隔を開けて座る、歌は歌わない、窓を開けての換気などコロナ感染防止対策を取って元の形に戻った。病気高齢、多忙などで参加できない会員が増えたが、新規会員が参加し、定例会議出席者は各回9～15名、平均約12名が出席している。

(2) 事務局体制と役割分担

会の活動にあたって、定例会議に出席している事務局メンバーはできるだけ様々な活動を分担することとしているが、人数が減ったため役割分担が固定化している。年度途中の事務局長の退任により、8月に新しい事務局長を決め、各担当も役割分担を調整した。また、通信発送会は定例会議に出席されない会員も参加されていたが、高齢化のため、参加者、手配り人員が減り、郵送も増え、時間的負担も大きくなった。年末の大掃除の後、茶話会を行った。

(3) 助成

イオン環境財団から助成金を受けた。

(4) 寄付

MS&ADホールディングスから寄付いただいた。

あいおいニッセイ同和損保KK福岡支店より寄付いただいた。

住友ゴム工業(株)から寄付いただいた。

イオン九州(株)から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」でギフトカードを寄付いただいた。

和白東レインボークラブ連合会より寄付いただいた。

会員や市民からカンパをいただいた。

(5) 応募と受賞

・8月 「第23回日本水大賞」応募

- ・ 10月「エクセレント NPO 大賞」応募
- (6) 2021 年度末の新規会員
個人： 1 1 名、団体： 1 団体
- (7) 2021 年度末会員数 (新規会員含む)
個人会員： 2 3 6 名 団体会員： 1 4 団体

17 . パンフレット類の在庫 (2021 年 1 月現在)

- ・ 和白干潟を守る会リーフレット 1,859
- ・ 和白干潟の自然案内 (和文) 3,460
- ・ 環境教育シリーズ (環境教育プログラム) 8,008
- ・ 環境教育シリーズ (水鳥, 底生生物、植物図鑑) 3,352
- ・ 和白干潟観察マップ・年間スケジュール表 毎年印刷
- ・ 和白干潟を守る会封筒 4,000
- ・ ラムサール条約と和白干潟 724
- ・ 未来につなごう和白干潟 ~ 和白干潟を守る会 20 年のあゆみ 11
- ・ 未来につなごう和白干潟 ~ 和白干潟を守る会 30 年の歩み 591
- ・ 四季の和白干潟の自然 5,081
- ・ 四季の和白干潟の自然 7,380
- ・ 和白干潟の自然案内 (英文) 512
- ・ 環境教育シリーズ (英文) 376
- ・ 環境教育シリーズ (韓文) 41

18 . その他

- ・ 海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力 (毎月 1 回) 2 名